

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	群馬大学	整理番号	F02
プログラム名称	重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	石崎 泰樹	プログラムコーディネーター	中野 隆史

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、的確なプログラム目標設定の下、重粒子線による先端的治療と同等の教育用研究設備体制及び医工連携体制を整えて、学位プログラムの仕組みづくりと国際的評価体制並びに優れたグローバル人材育成の体制を構築し、国際的な実績をあげていることは評価できる。具体的には、多くの国内外の関係機関でのインターンシップ等を実施し、国際学会での発表も増加してグローバルリーダー資質が育成されている。また、応募者も多く、6年間の予定の入学定員（24名）の1.4倍（34名）のプログラム学生を受け入れている。さらに、医工連携の成果として医学分野のみならず工学分野でも特許取得等の成果をあげている点も評価できる。懸案であった癌治療効果の検証には、国際共同ランダム化比較試験が企画され、2024年に結果を公表するロードマップが示された。また、重粒子線マイクロサージェリー治療システムなど重粒子線の癌以外の医療分野への応用も実証する成果をあげていることは評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、多くの産官学の関係機関が密に連携して順調に進展した。また、修了後も修了者のフォローアップを行うなど、実質的なグローバルリーダー育成に向けた調査に努めている点も評価できる。学生の重粒子線治療普及への意識が高く、留学生にも担い手としてのリーダー資質が醸成されつつあるが、本プログラムは装置や治療法の優位点を背景にしており、今後の展開には、個々の学生のキャリアパス構築へのフォローアップに十分留意する必要がある。

事業の定着・発展については、今後も安定した財源を確保して運用する見通しを得ていることは評価できる。その一方で、工学修士号取得後の博士課程進学率が少ない点は、今後一層の努力が期待される。理工学府の学生についても、平成31年度から新たな5年制プログラムや新しい学位（博士（理工学））を設けるなど、人材育成体制も整えつつある。また、対応が遅れていた医工連携についても日本独自の現場での融合施策が奏功しつつあり、次のステップとして上記の医工連携のプログラムを新設するなど、積極的な取組が進められていることは評価できる。また、積極的に国際化を進め、学生に現場を経験させる中で真のグローバルリーダーになる意識を高め、国際競争力のあるプログラムにしていくことや、今後の医工連携等の成果については、群馬大学の知財戦略を構築することが期待される。